

小学6年生(19名) 模擬議会



令和4年度予算を可決……………②～③

補正予算・提出議案・請願・発議の審査……………④～⑤

村政を問う・一般質問……………⑥～⑮

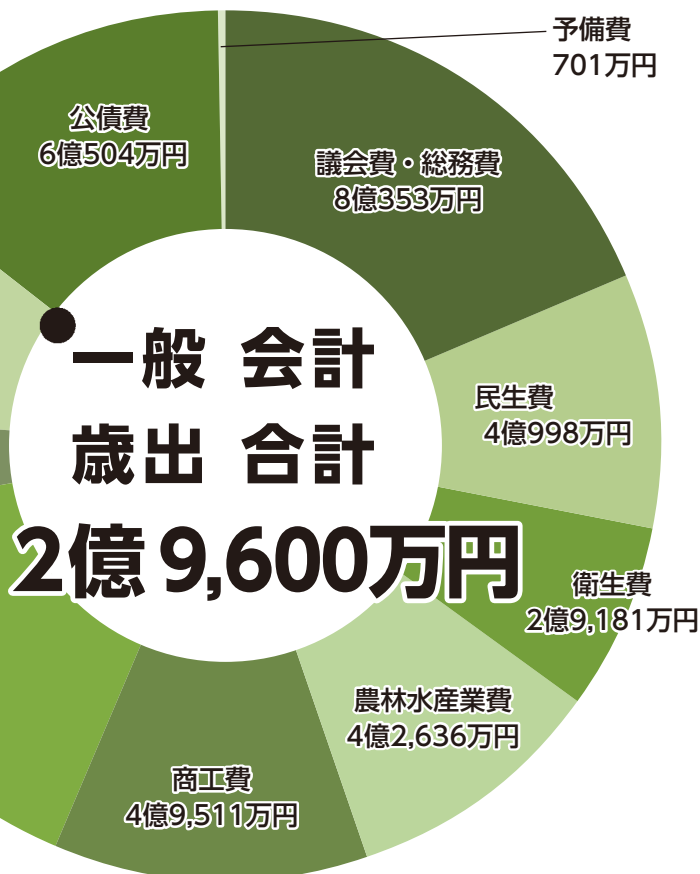
小学6年生模擬議会……………⑯



42億9,600万円

件、発議1件、陳情等2件を審議し、

予算ピックアップ



予算特別委員会での質疑

質問：①プラットフォーム事業のアドバイザー料はどんなことに対してか。②塩の道ガイドについて、村民全員を対象とした講座できないか。③公共交通の工事費は何か。

回答：①協議会のアドバイザー料②村民対象の講座を考たい。③バス停工事。(大渚下・白岩)

要望：観光連盟補助金7000万円。今までどおりだと無駄になってしまう。今の時代に合った事業をしていただきたい。SNSを活用した発信をしてほしい。他の地域と比べるとかなり発信力が弱い。毎日2度更新している自治体もあれば、1月から更新していない所もある。観光連盟の事務所が庁舎内では実際のお客様も観光地も見れないというのが非常に大きい。(観光連盟)事務所機能を庁舎内に置くべきではないと思う。折角、多額のお金をかけるのだから効率のよいやり方を目指してほしい。

総務課

● 行政手続きオンライン化システム改修	1,031万円
★ 関係人口創出事業	689万円
● 庁舎屋根改修側面補修工事	1,331万円
● 情報システム強靱化対策更新	3,471万円
● 千国地区防火水槽設置工事	1,200万円
★ ふるさと応援寄付金事業	2億15万円

住民福祉課

● 繰出金事業(国保、診療所、後期高齢者特別会計)	5,629万円
● 新型コロナウイルス感染症予防事業	1,584万円
● 成人保健及び健診事業	5,361万円
● 白馬山麓環境施設組合負担金	4,410万円
● ごみ処理広域化推進負担金	3,873万円

観光地域振興課(観光商工係)

● 公共交通事業用委託料	1億20万円
● 観光連盟負担金・補助金	9,257万円
● 自然園木道及び木橋改修工事	2,580万円
● 緊急観光対策補助金	1,400万円
★ 観光地域づくりプラットフォーム運営事業	1,008万円
● 雨飾荘ボイラーエアコン工事	2,200万円
● 北小谷源泉貯湯施設工事	1,632万円

観光地域振興課(農林係)

● 中土観光交流センター照明LED化改修等工事	1,550万円
● 温泉施設整備管理業務	4,300万円
● 中山間直接支払事業	4,704万円
● 石坂探検村四阿設置工事	733万円
● 林道姫川妙高・大池線工事	2,419万円
● 農集排事業特会繰出金	5,958万円

観光地域振興課(集落支援係)

● 集落支援事業	2,891万円
● 移住促進事業	2,015万円
● 拠点施設運営事業	3,762万円

議案18号
令和4年度
予算を可決

令和4年度一般会計予算

令和3年度追加補正予算

- 道路除雪事業
1億8,530万円
- 簡易水道事業会計繰出金
△1,000万円
- 減債基金積立金
2,437万9千円

令和4年3月18日の議会3月定例会において決議された要望を含め、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会でまとめた申入書を村長あて提出した。



3月定例会 3月7日～18日まで開かれ、議案26
すべて可決した。(全員賛成で可決)

建設水道課

- 東橋・小土山橋梁修繕工事 5,486万円
- 平倉ロック・スノーシェード補修工事 5,275万円
- 生活関連緊急整備道路補修等工事 3,980万円
- 姫川橋橋梁点検業務・小谷橋補修設計業務
2,500万円
- 道路除雪事業 2億6,806万円
- 公共下水道事業会計繰出金 1億2万円

教育委員会

- ★ 総合型地域スポーツクラブ補助金 410万円
- ★ 指導・大会等委託料 1,097万円
- ★ 白馬高校支援事業 3,198万円
- ★ 中学生海外交流事業(台湾) 751万円
- 子育て支援センター運営事業 425万円

※ ★印のついている事業は、ふるさと応援寄付金を財源とした事業です。

新規・拡充



(全員賛成で可決) 特別会計予算 4億7,000万円

議案番号	区分	3年度当初予算額
19	国民健康保険特別会計	3億4,340万円
20	国民健康保険診療施設特別会計	9,400万円
21	後期高齢者医療特別会計	3,800万円

(全員賛成で可決) 地方公営企業会計予算(会計上、収支に相違あり)

議案番号	区分	収益的収入支出予算		資本的収入支出予算	
		収入	支出	収入	支出
22	簡易水道事業会計	1億5,971万円	1億4,296万円	6,144万円	9,339万円
23	下水道事業会計	1億6,173万円	1億5,837万円	1億3,695万円	1億3,800万円

複合拠点施設についての質疑

質問：当初目的の見守り住宅の考え方が全くない。村内のお年寄りの方が安心して入るという事は全く考えていないのか。

回答：部屋を貸せるというスタンスで当面やっていきたい。今のスタッフでは受け入れ不可能。

先日、つなぎで3日受け入れたが大変だった。

質問：支援の必要のない人。そういう人を受け入れるという事で建設が始まったがそういう受け入れが全く見られない。

回答：それは、福祉系の範ちゅうなのでそちらに照会していただきたい。

質問：これは700余名の人たちの要望で建設した施設。当初の目的と大きく変わってきている。

回答：全くそういう人を排除している訳ではない。希望者は一時的に受け入れはしている。15部屋のうち、3～4部屋は緊急避難の使用をし、残りは関係人口創出として使用したい。

◇ 村長提出議案（議案）

	件名	内容	
議案第2号	令和3年度小谷村一般会計補正予算（第8号）	3,100万円追加 総額45億6,800万円	全員賛成
議案第3号	令和3年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第3号）	320万円減額 総額9,520万円	全員賛成
議案第4号	令和3年度小谷村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	160万円減額 総額3,730万円	全員賛成
議案第5号	令和3年度小谷村簡易水道事業会計補正予算（第4号）	収入総額 2億5,438万1,000円 支出総額 2億7,950万3,000円	全員賛成
議案第6号	令和3年度小谷村下水事業会計補正予算（第2号）	収入総額 3億2,927万9,000円 支出総額 3億2,717万6,000円	全員賛成
議案第7号	小谷村特定個人情報保護条例の一部を改正する条例について	根拠法律の変更に伴う改正	全員賛成
議案第8号	小谷村非常勤消防団員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	消防団員の標準報酬が国から示されたことに伴う改正	全員賛成
議案第9号	小谷村天災等による応急対策臨時措置条例の一部を改正する条例について	消防団員の標準報酬が国から示されたことに伴う改正	全員賛成
議案第10号	小谷村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	国の法改正に伴う改正	全員賛成
議案第11号	小谷村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	国の法改正に伴う改正	全員賛成
議案第12号	小谷村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	施行令の一部改正に伴う改正	賛成多数 反対：曾根原
議案第13号	小谷村国民健康保険条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について	新型コロナウイルス感染症に感染した被保険者等に係る傷病手当金の支給期間を規則で定められるように改正	賛成多数 反対：曾根原
議案第14号	小谷村雨飾高原キャンプ場施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	テントサイズの大型化に伴う料金限度額の改定	全員賛成
議案第15号	小谷村杵掛古民家施設の設置及び管理に関する条例の全部を改正する条例について	指定管理者不在のため、直営管理が可能となる改正	全員賛成
議案第16号	小谷村複合拠点施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	村外者及び団体の利用も可能とする改正	全員賛成
議案第17号	小谷村農山村体験交流滞在型施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	電子媒体での契約が可能となるような法改正により施行と同時に稼働するための改正	全員賛成
議案第18号	令和4年度小谷村一般会計予算	42億9,600万円	全員賛成
議案第19号	令和4年度小谷村国民健康保険特別会計予算	3億4,340万円	賛成多数 反対：曾根原
議案第20号	令和4年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計予算	9,400万円	全員賛成
議案第21号	令和4年度小谷村後期高齢者医療特別会計予算	3,800万円	全員賛成

	件名	内容	
議案第22号	令和4年度小谷村簡易水道事業会計予算	収入総額 2億2,115万4,000円 支出総額 2億3,634万7,000円	全員賛成
議案第23号	令和4年度小谷村下水道事業会計予算	収入総額 2億9,867万3,000円 支出総額 2億9,636万8,000円	全員賛成
議案第24号	工事変更請負契約の締結について（沓掛古民家改修工事）	922万9,000円増額（曳家増外、木材価格高騰による単価変更）	全員賛成
議案第25号	伊折農山村体験交流施設の指定管理者の指定について	伊折農業生産組合 組合長 藤原一幸	全員賛成
議案第26号	令和3年度小谷村一般会計補正予算（第9号）	9,000万円追加 総額46億5,800万円	全員賛成
議案第27号	損害賠償の和解並びに額を定めることについて	車両の方向転換時における他車との衝突（人身分）	全員賛成

※指定管理者の期間は全て令和4年4月1日から令和7年3月31日まで

◇ 請願・陳情（請）

番号 付託委員会	件名	提出者	審議結果
請第1号 総務委員会	消費税「適格請求書（インボイス）方式」の実施延期を求める陳情書	北アルプス民主商工会 会長名 種山 博茂	趣旨採択 （賛成多数） 反対：曾根原
請第2号 経済委員会	小谷村観光事業者等の運営における支援について	梶池高原観光協会 協会長 栗田 浩史 白馬乗鞍観光協会 協会長 相澤 一義 白馬コト観光協会 協会長 荻沢 洋平 梶池スキー学校 校長 猪又 一之 白馬乗鞍スキー学校校長 郷津 茂 コルチナスキー学校校長 荻沢 洋平	採 択 （全員賛成）

◇ 議員発議（発議）

番号	件名	
発議第1号	予算特別委員会の設置について	採 択 （全員賛成）
発議第2号	ロシアによるウクライナ侵攻を強く非難する決議（案）	採 択 （全員賛成）

3月8日、大町文化会館で大北農業パワーアップ研修会が行われ、優良農業団体表彰で本村の(株)小谷七人衆が受賞されました。

経済委員会



全国町村議会議長会定期総会において、多年にわたる自治の進展のために尽力された功績により、会長の南雲 正氏から表彰の栄に浴されました。今後、ますますの活躍を期待します。

藤原 賢司

令和3年度
全国町村議会議長会
自治功労者表彰
（15年以上在職者）

村政を問う

令和4年3月定例会一般質問

質問通告書 締切3月3日

一般質問は、定例議会において1時間の制限で執行機関に疑問点や所信を問います。質問者交代時に約5分の換気後、2日に分け9名が実施し、議場の傍聴者は両日とも6名でした。

〈質問項目〉【順番は質問通告書提出順で、質問議員各自でページ作成をしています。】

15日（火） 午前10時～12時・午後1時～3時26分

- | | | | | |
|---------|----|--------------------|--------------------|--------|
| 1、吉澤 学 | 議員 | ① 新型コロナ対策について | ② 豪雪対策について | (7 P) |
| 2、吉岡 久人 | 議員 | ① 大糸線（JR西日本）の現状は | | (8 P) |
| 3、深澤 英喜 | 議員 | ① 観光人口創出事業について | ② 複合拠点施設について | (9 P) |
| | | ③ 特定地域づくり事業について | ④ 梶池自然園楠川トイレ建設について | |
| 4、猪股 充拡 | 議員 | ① 令和4年度小谷村観光政策について | | (10 P) |
| 5、曾根原恵子 | 議員 | ① 子育てを社会で支える仕組みに | | (11 P) |
| | | ② 冬期間の生活、安心の環境確保を | | |
| 6、宮澤 正廣 | 議員 | ① 観光地域づくり審議会について | | (12 P) |

16日（水） 午前10時～午後0時32分

- | | | | | |
|---------|----|------------------------|--------------|--------|
| 7、藤原 賢司 | 議員 | ① 少子高齢化を見据えた政策について | | (13 P) |
| 8、太田 武彦 | 議員 | ① これからの村政執行について | | (14 P) |
| 9、北村 利幸 | 議員 | ① 複合拠点施設運営について | ② 白馬高校支援について | (15 P) |
| | | ③ 大糸線存続と利用促進・輸送力強化について | ④ 山菜加工所改修は | |

「検討する」の回答はどうなったか？

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】(抜粋)

〈質問(令和3年3月)〉

〈再 回 答〉

- | | |
|---|---|
| ●地域包括ケアシステムの進化・充実を図るとは。…………… | ◆3年度から医学的リハビリテーションの専門職である理学療法士配置により地域包括支援センターには社会福祉士、保健師、認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターと合せた充実した職員体制となった。 |
| ●山菜加工場の今後の予定は。…………… | ◆去る1月27日にJA組合長・幹部と懇談を行い、現状と今後について報告を受けた。従前報告のとおり、山菜加工場では、塩漬けのみを行い、外注にて製造をお願いする方針に変わりはないが、現状と同等に近い製品ができていないとのこと。また、販売する案件について、やはり販売あつての製造であること。外注して良い製品ができるか？、また、製造と販売の基本計画を再考することも議論した。今後も検討・協議を継続する予定。 |
| ●大型事業、ふるさと納税、観光に結びつけるイベント、空き家、感染症、SDGs、古民家再生等の対応は。…………… | ◆3年4月1日付で役場内組織改革を実行し、観光地域振興課の新設、集落支援係、健康推進係など、5つの課、15の係として村民対応をしている。 |

新型コロナウイルス対策について



吉澤 学 議員

豪雪対策について

入れるために、予め用意していた人員や先行投資していた物品などもあり、とても大きなダメージだった。長野県から損失を受けた事業者への支援を自治体独自で対策できるよう約3500万円の交付金が小谷村へ支給される見込みとなっている。損失を受けた事業者に対する対応策を提示したいと考えてる。ただし、今後につながる対応や支援策にしていかなければならないことを基本として考えている。スキー学校などは、任意団体であり、あらゆる支援対象になつていない組織。国では事業者として見なされない場合もあり、支援手法については考えなければならぬことも事実である。今シーズンの実績と状況を判断した上で、支援内容や対応を考えていきたいと思つている。

問

本年、大雪により、生活に何らかの影響が出ています。屋根雪、除雪等この数年にない重労働。また、燃料の値上げによる生活資金の圧迫がある。非課税世帯の対策はとつたが、村民全般への給付金の考えはあるか。

答

村長 2月末日の累積降雪量は同シーズン798cm、今冬660cmを観測している。降雪・除雪量が例年以上に多いため、除雪作業における事故が多く発生し、北アルプス広域消防から村に報告があつた除雪作業中の事故による救急要請が、2月末までで9件報告されている。村では、自己の労力・資力では屋根雪下ろしが出来ない世帯として、住民税所得割非課税世帯のうち、「六五歳以上高齢者」「二人親世帯」「生計の中心者が傷病、障がい等の世帯」について、屋根雪下ろ

しなどを支援している。これまで民生児童委員の協力をいただき、地区の実情に応じて相談しながら実施しているが、支援する方も高齢化してきている実情がある。今後を見据えて現在の報酬単価の引き上げや、除雪を支援できる団体等を正式に募集するなどし、紹介できる体制を作る必要があると思つている。非課税世帯への灯油代助成については、住民税非課税世帯へ一万円助成を行っている。全村民への一括での助成については現時点では考えていないが、国による財政措置等があれば対応したいと考えている。

問

春の農作業への影響で具体的対策を考えているか。

答

村長 農業関係での残雪対策を検討している。従前の残雪が多い年度に関しては苗代を行う農家に対して排雪・消雪を行うなど農家支援を行ってきた。排雪作業に関しては、

問

今冬季通学路の安全点検はどうなっているか。

答

教育長 千葉県八街市にて発生した痛ましい交通事故を受けて、昨年9月に道路管理者、警察、交通安全協会、学校、PTAの地区委員さんが通学路の点検を行い、危険箇所については校外指導部を通じて安全マップに記入をし、必要があれば要望を上げていく体制になつている。

問

オミクロン株の流行により、小谷村の主要産業である観光に重大な影響を与えている。観光事業者及び関連している貸スキー、スキー学校、お土産店、従業員に対し、援助を必要とするが、対策はあるか。

答

村長 小谷村でも1月後半からの修学旅行、スキー合宿など、団体を主とした客層の来村が完全にストップとなった。特に修学旅行を受け入れる場合は宿泊だけでなく、生徒を教えるスキー学校や用具を提供するレンタル業、また、近隣のお土産店への影響も大きいことを承知している。

さらに、団体客を受け

大糸線（JR西日本）の現状は



吉岡 久人 議員

問 今年1月15日付け新聞に『輸送密度2000人』届かぬ地方の見出しで掲載され、これを契機に2月4日、「大糸線 振興部会新設」と「存続 採算性―思惑にずれも」の見出しの記事が掲載された。これらの記事を見て、『列車がなくなる』と思った村民は多いだろう。そこで次の質問をする。

- ①報道の前後の経過。
- ②大糸線利用促進輸送強化期成同盟会（会長・牛越 徹大町市長）の活動経過。
- ③この報道を受けて、今後の活動。
- ④中村村長就任後の小谷村

の活動経過。

⑤3月2日、小谷村議会として県知事に要望書を提出したが、村として独自の活動計画はあるか。

◎県知事への要望書（要約）

1輸送強化及び利便性の向上について（沿線地域には唯一で日本海と太平洋を結ぶ重要な鉄路。南小谷駅での接続改善・強化は極めて需要）

2JR西日本への要望支援について（近年の運行状況は豪雪、集中豪雨や台風等天候による代行運転の無い計画運休多く、住民の苦慮。観光路線としての期待も高い）

3利用促進対策の連携について（県のご支援を）

⑥今後、村民としての行動はどんなことが考えられるか。

答

村長 一括して答える。

小谷村を含む沿線自治体で構成する「大糸線利用促進輸送強化期成同盟会」では、従前からJR西日本との協議を行ってきた。協議の主題は、「大糸線南小谷から糸魚川間における持続可能な方策を検討するため、沿線自治体と議論していく」ということで、水面下でJR西日本と協議してきたが、JRの提案で有識者や民間事業者等の参画で持続可能な路線として議論していく意見がされ、行政だけでなく広くオープンな形で共通認識をもった活動をしていく計画をしたところ、この趣旨とは異なる報道がなされた。

平成28年10月、JR西日本より糸魚川市に相談「利用状況は危機的状況で、沿線自治体も危機感を持ってもらい今後について議論を始めた」とい

平成31年2月、「大糸線活性化協議会」設立。その後、JR西日本と協議し、8月

に大網と役場で大糸線の状況などの住民説明会、令和2年3月から5回にわたり、大糸線の持続可能性に関する勉強会を活性化協議会で行ってきた。勉強会は、JR西日本からの大糸線の現状報告が大半でした。2月3日のプレス発表では、廃線というキーワードがクローズアップされた形で報道され、期成同盟会としては議論していくテーマが異なると意見し、JR西日本に対して信義を問いただしているところだ。



国鉄時代の長野・金沢管区境の白井北小谷駅上り7:05発の始発列車

今後の予定は、そう遠くない日程で大町市・糸魚川市・白馬村・小谷村の首長とJR西日本金沢支社長との懇談を予定しており、報

道に至った経過などの説明や対応を求め、今後の持続可能な方策の検討手法など協議する。その結果をもって今後の進め方が決定していくので現段階での予想答弁は控えさせていただきます。

同様に村独自の要望活動の計画も今は答えられないが、必要となる時期が出てくると考えられ、鉄路は複数の自治体を網羅するもので、一体となった取組みが欠かせないと思うので、今後の展開により臨機応変な活動を行うと考える。

今後の村民としての活動も、現段階では、やはり大糸線に興味を持ってもらいたいと考え、特に南小谷以北の貴重な鉄路であることを再認識し、今後様々な意見交換会、説明会も予想され、住民ばかりでなく観光客も利用する貴重な路線であることを理解し、小谷村全体で活性化施策への対応や協力、促進活動をしていくことが第一と考えるので協力願いたい。

関係人口創出



深澤 英喜 議員

問 3年間で約2000万円支出している。10年後・20年後の結果を見ての事業だが。10年後・20年後の結果はどんな内容か、数字に置き換えた場合の結果は。

答 総務課長 数字で表すのは困難である。ゆくゆくは定住人口を目標に地域を維持していく点で効果的である。

問 未来の見えないことに村費を使うのか。

答 村長 子供たちの教育・子供たちを育てていくという考え方でやっている

問 委託事業者が令和4年3月で終わる。運営開始から令和4年3月までの、村が負担した維持費、業務委託費等と収入は。

答 委託事業者が令和4年3月で終わる。運営開始から令和4年3月までの、村が負担した維持費、業務委託費等と収入は。

複合拠点施設

問 4月からの収入は確保できるのか。

答 特産室長 4月以降当面、いろんな方達が入る。いろんな利用の仕方をしてみたい。収入見込みははっきりしていない。概ね500万円を予算化している。

問 全国初という施設。よいスタートができなかった。休館してもしつかりした体制を検討すべきでは。

答 村長 「よいスタート」「よいスタート」ではなく、この施設を村民のためにどのような形で使っていくのかという点についていろいろ検討して、協議を進めてきた。

問 残念ながら、事業者の方から今後の継続はできないという内容については、大変われわれとしても辛い決断として受け取っている。

答 村長 65歳以上の安心住居施設の規模を問うアンケートから、「いざ利用したい」との回答が大半。10〜20部屋を決定した。

問 造成工事4300万円の入札率は。

答 村長 村内業者8社で入札。入札率99・73%。

問 トイレ建設が、現在どのように進んでいるか。

答 村長 現在のところ、恒久的トイレを再度建設する計画はない。

問 国立公園法の規制や自然園の入園者数の推移や運営方法、維持管理体制を考慮した場合、もう少し違った対策を考えることも必要。今しばらく様子を見るべき。

答 村長 現在のところ、恒久的トイレを再度建設する計画はない。

一般質問

問 「キッズワイルドおたり」「サマーキャンプ」「子供自然体験プログラム」この事業の継続は。村長 ふるさと納税を通じて寄付金をいただいた寄付者との関係を大切に、寄付だけではなく、継続的なつながりをつくり、未来のお客様、移住者へとつなげていきたい事業。ふるさと応援基金「子どもたちの自然体験活動に関する事業」でいただいた寄付金を充当している。この目的で積み立てられた基金は約5億円である。事業実施に向けて予算を計上している。

問 光熱水費や設備委託などの設備移動のための準備費用も含めた令和3年度の維持費は、設備運営に係る委託料、光熱水費など、4300万円。運営において収受した利用料収入は、105万円。現在の事業者の撤退理由は。特産室長 事業者側から、令和4年4月1日以降から委託業務継続の意思がないと告げられた。業者との交渉は、最初の契約との関係は。特産室長 「諸事情により」の話しか聞いていない。村側としては今の形を考え直さないと。4月からの収入は確保できるのか。特産室長 4月以降当面、いろんな方達が、いろんな利用の仕方をしてみたい。収入見込みははっきりしていない。概ね500万円を予算化している。

問 全国初という施設。よいスタートができなかった。休館してもしつかりした体制を検討すべきでは。村長 「よいスタート」「よいスタート」ではなく、この施設を村民のためにどのような形で使っていくのかという点についていろいろ検討して、協議を進めてきた。残念ながら、事業者の方から今後の継続はできないという内容については、大変われわれとしても辛い決断として受け取っている。2階の施設が当初3部屋になった理由は。村長 65歳以上の安心住居施設の規模を問うアンケートから、「いざ利用したい」との回答が大半。10〜20部屋を決定した。

問 造成工事4300万円の入札率は。村長 村内業者8社で入札。入札率99・73%。

問 トイレ建設が、現在どのようになっているか。村長 現在のところ、恒久的トイレを再度建設する計画はない。



楠川仮設トイレ

特定地域づくり

紙面上「割愛」します。

令和4年度小谷村観光政策について



猪股 充拓 議員

問

令和4年度小谷村予算案の、特に観光関連事業や観光関連の継続事業について3点伺う。

①小谷村観光地域づくり観光審議会の答申で始まった観光地域プラットフォームですが、今回運営委託費等で予算計上されているが令和4年度の展望及び具体的な活動計画を伺う。

答 令和3年度において理事会及び雪国分科会・里山歴史分科会・観光戦略分科会の3分科会で小谷村の資源・資源の価値を高めるには等々を話し合わ

れてきた。

令和4年度の活動計画として分科会で議論する会議形式を解消し村民の皆様の意見を聞き一緒に汗を流し悩んでいることを一緒に考えられるような活動にシフトする計画を理事会で提案し承認されている。

令和4年度に計上しているものは有識者が各種事業や取り組みにおいて助言・提言を依頼するための費用・塩の道のガイド育成に係る事業また自主的に地域づくりや観光地づくりに取り組む事業に促進すべき費用等、事務局人件費を含め約1000万円としてある。地域づくりには時間・議論に時間を要することは他地域の状況をみて覚悟しなくてはならないと思っている。まずは令和3年度の

議論から取り組んでいけることを実践する計画として

②特定地域づくり組合の現在までの成果について。

答

令和3年12月から特定地域づくり事業に着手しており約4か月経過しようとしている。

「おたり地域づくり協同組合」の取り組みについてだが冬季の事業が始まったことで、組合構成員である索道会社への派遣が実施されている。12月15日に男性1名1月8日に男性1名を職員として採用し冬期間のアルバイト滞在ではなく年間を通して小谷村で仕事をしないかの意思を確認し協同組合の業務や年間の従事計画など説明した上で雇用計画を締結している。

当初計画は6名の予定だったが今のところ2名という状況となっている。成果については小谷村の企業に2名が就職したイメージだが、この事を利用して、参

画企業がタッグを組んで通年の働き口や居住を確保し小谷村に住む一歩目になったことが成果で、移住促進と雇用斡旋の2つのテーマで労働力を確保したことになつていく。今後もマルチワーカーを小谷村に引き入れ労働力確保のほか将来的には地域に根付いた生活や活動をしてもらうことを期待し人口増につながることを目標にしている。

③大糸線の観光路線として構築していく展望等は。

答

大糸線の現状から通学・通勤などにおける恒常的な乗車については人口減もあり、小谷村だけでなく糸魚川市においても乗車実績を劇的に向上させることはとても厳しいと考

えている。観光路線の魅力としては決して捨てたものじゃないと思つている。

大糸線は松本から糸魚川までを結ぶ基幹路線であり、北アルプスの麓から海拔0m地点まで北アルプス連峰

を横目に見ながら移動できる日本きつてのアルプス路線との気持ちを持っている。

当然ながら観光路線としての魅力をもつとアピールしていくことは必要であり、沿線自治体で連携した取組を促進したいと考えている。もつとも重要視される南小谷から糸魚川間においては、逆に非電化路線であることを逆手にとつてオリジナル路線として売り出す要素も考えている。

今回JR西日本の一部路線が厳しい状況との報道により全国から注目を集めた中での特徴ある活動や事業展開ができるよう関係者や沿線自治体と協力した取組を行いたい。

糸魚川市とは特に連携を強化し、大糸線も含め塩の道や産業連携など、これを期に更なる協力体制づくり、また観光地としての地域づくりをしていきたいと考える。

子育てを

社会で支える仕組みに



曾根原恵子 議員

問 働く女性の支援で環境をどう整えるか。

保育園・学童保育・放課後デイに対する考えを。

答 村長 保育園の3歳未満クラスは定員

が手狭になっているので増築等、検討を進めたが、現状のスペースで対応するため敷地内に余裕がない。今後、未滿時保育・一時保育の希望が増える予想であり、村保有の施設を利用できないか、対応を検討する。「がったクラブ」は小学6

年まで利用できる。9人の

指導員を配置。登録児童は44人、今年度はコロナ禍、利用控えがあり6割程度となった。4年度からは、総合型地域スポーツクラブで一緒に活動できるので放課後活動の充実となる。指導員確保が課題だ。

子育て支援センターには助産師を配置し産前産後のサポートがより充実した。放課後デイは療育が目的で共働き支援の趣旨ではない。

問 女性の雇用環境改善をどう進めるか。

答 教育長 自治体も企業も男女ともに働きやすい環境を作る。村の子育て支援充実も雇用環境改善につながる。

問 コロナ禍で仕事もケアも担う女性たちが、非正規の割合が多い。

処遇改善のため国から補助金交付されたが、なぜ、この制度活用を見送ったのか。学童保育指導員・介護職・保育士も対象で全額国の負担だ。フルタイム・パート職員の雇用改善に役立つべきでは。

答 教育長 国の負担は10月までの期限付きであるため今回は見送った。コロナ禍で子育ての不安を拭う情報が必要だ。

問 学級閉鎖の基準、濃厚接触の判断と対応。保護者が仕事を休みにくい場合の対応を伺う。

答 教育長 陽性者の経過するまで臨時休業。状況により学校全体の臨時休業を検討する。今回は学校全体のPCR検査を行った。利用者登録していない児童も「がったクラブ」を利用できる体制をとっている。また職員については検査結果が出るまで特別休暇

が取れる。国保の均等割り18歳まで軽減を。4月から国が未就学児の均等割り5割を公費で軽減する。村独自策で対象を引き上げる考えは。他の自治体の調査を。

問 国保の均等割り18歳まで軽減を。4月から国が未就学児の均等割り5割を公費で軽減する。村独自策で対象を引き上げる考えは。他の自治体の調査を。

答 村長 条例での減免は可能だが限定的と国・県の見解を確認した。減額を25自治体が実施している。情報収集して国保運営協議会に諮りたい。

冬期間の生活、安心確保を

問 今年の大雪は、屋根雪降ろし、家の周りの除雪に追われる毎日となった。

高齢者世帯・障がい者・ひとり親家庭などへの支援体制、相談作業要請の窓口は。

答 村長 民生委員を窓口として昨年比1.6倍の実働となった。課題

が見え、共助の高齢化、活躍できる世代も手いっぱい、建設業者の除雪支援を紹介したが、今後を見据え支援団体の募集や報酬単価の引き上げ等対策を考える。

問 集落配置の小型除雪機の現状と課題は。

答 村長 配備地区と協議し更新しているが、計画的な配備と更新を地区と相談して進める。高齢化に伴い状況に応じた機種選定も必要だ。

問 燃料高騰による支援拡充を全村民に。

答 村長 非課税世帯等への支援をした。全世帯支援については考えていない。



相談窓口・教育情報を一冊にまとめたイラストは村内在住の女性

観光地域づくり審議会 について



宮澤 正廣 議員

設置から現在までの経緯と進捗状況は。

問 設置から現在までの経緯と進捗状況は。

答 設置から現在までの経緯と進捗状況は、就任後進めていた観光再生事業について見直しをし、今後の観光のあり方を村民が当事者となつて、トップダウンではなく、ボトムアップの方策として作り上げていこうと考えて観光地域づくり審議会を設け、令和元年11月25日に諮問をし、令和2年9月30日に答申を受けた。三部構成となつている答申の詳細について、議員各位にはお目通しただいているものと思

う。また、ホームページ等でも掲載しており多くの皆様に見ていただけるようにしており、ここでは触れないが、インバウンド需要も含めた大きな観光の潮流を受け止めるため、どのように進めるべきかに加え、コロナ・パンデミックが環境を変え

るといったことも言及した内容である。この答申以降、ご指摘のように、観光地域づくりプラットフォームとして進めていこうとしたプロジェクトがコロナ禍で思うように進めなかつたことは否めない。言い訳にするわけにもいかないと思うが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、観光業自体も、変革の波となつてきたことは事実であり、新たな課題として対応していくべきことも増えたと考ええる。そん

な中、本年3月2日の観光地域づくりプラットフォームの理事会において、一つの方向性を見出すべく活動の成果を話し合うことができたと考え、意見集約等はまとめの段階まできた状況と捉えている。

問 事業に対して優先的に実行していくものは。

答 事業に対して優先的に実行していくものは。

村長 前回の理事においては各プロジェクトリーダーより、プロジェクトの成果について報告があり、加えて今後の方向性について話があり「雪国」プロジェクトでは、大きく3点のまとめがあった。1つ目は、グリーンシーズンでの雪の活用について。2つ目は国立公園内の通行規制について。3つ目は春先、雪のある時期から始まる春熊猟などによるジビエ肉活用についてである。優先的な展開として、本年鎌池周辺で雪を実際に残し、夏に活用することを実践する。観光に訪れたお客様にどのような

反響があるのか大変楽しみでもあり、今後どのように活かせるのかデータとして残し広がることに期待をしたい。また、ジビエについては解体処理施設の整備を明確に示すことができるのかにかかつている。庁内をはじめ、猟友会の皆さんからの聞き取りも併せて進め、早い段階で方向性を定める。加えて「雪国」プロジェクト

というよりは、全体の戦略として提案された妙高戸隠連山国立公園の通行規制については本年も引き続き実施する。「里山」プロジェクトについては、役場庁内ばかりではなく、より現場に近いところで議論を進めることができた。特に観光面で小谷の里山文化の代表となつている塩の道については、多くの議論がされ、中でも今まで便宜的な位置づけであった「塩の道公認ガイド」については、資質向上、後継者の育成を図ることが必要という結論になり、本年

は早速4月から座学と検定試験、5月からガイドウォークに取り組み、小谷の塩の道ファンを増やし、観光客の満足度を高める活動やイベント需要増加に向けた対策活動を行う。またトレイルランニングコースとしての誘致を目指すことや糸魚川市との連携についても優先度を高く進める。「観光戦略」プロジェクトでは、今

までスキー場がメインだった小谷村の観光に対して、観光だけではなく小谷村の価値について意見を出し合い議論がされた。観光戦略の目指すゴールが見えなく、かみ合わないとの報告があったが、どのように小谷村を発信していくかという視点に立つて実行すべきことが見えてきたとの報告がされた。そしてまずウェブサイトを作りSNSによる発信をしていくこと。また、観光地域づくりプラットフォームというウェブサイトにありつつターゲットでの発信をしている。

少子高齢化を見据えた 政策を問う



藤原 賢司 議員

問 前松本村長の政策で外国人の観光客誘致

を目標に「おたたりアセット」を設立し、日本政策投資銀行から事業資金の出資及び観光事業に精通した奥直子氏を社員に迎え、事業を行う準備が整った矢先に、議会への説明、議決を得ること無くおたたりアセットは解散した状態で、現在代替案等は示されることなく3年が経過している。

少子高齢化による観光客の減少に対する対応策としては、外国人観光客の誘致が最適と思うが、村長の考えている施策は何か。

答

村長 前任の村長が進めようとしていた観光再開事業は一旦立ち止まり、村民が当事者として観光地域を進めるのが、私の代替え案であり、観光審議会の答申により本年度実現に向け動き出している。

誘致の対象となる外国人観光客誘致は、全く同感であるが、古民家群を使用して、対象を富裕層に向けた観光は考えてはいないし、客層を絞る考えも無い。

小谷村の里山の魅力に着目してくれる人が対象であり、特に、山岳地帯から塩の道を通じて日本海につながる日本の原風景は、外国人の方が日本に求める観光ルートの一つと考える。

日本の伝統文化、景観、食などを宿泊施設関係者との掘り起こしを考えたい。

問

少子高齢化に伴う観光客の減少、宿泊経営者の高齢化などに対応する施策として、以前に例として上げた、分散型ホテルについての考え、また、小谷村の中で分散型ホテルの適地があるか伺う。

答

村長 大変興味深い内容であり、小谷村での導入は、村民の意識醸成が必要不可欠と考える。

観光地域づくりは村民と地域ポトムアップでやる気になることが観光も含め事業の成否になると考える。

分散型ホテルは小谷村の多くの村民が事業者となり観光の在り方を考えていけば、小谷村全体が、議員提案の、コンセプトに沿う事業主体になると思う。

問

少子高齢化による生産人口減少は近い将来起こる深刻な問題だが、建設、観光、農業、福祉などに係わる生産人口確保の取組状況、将来に向けての政策を伺う。

答

村長 全国的にはAI技術を駆使したロボット、無人機械などの産業革命が進んでいるので、当面は企業の人材誘致で対応すべきと考えている。

繁忙期の人材確保や事業連携も、関連団体と協議し、「できることから」を、実践していきたい。また、令和4年からUIJターン事業の支援金交付や就職サイトでの斡旋勧誘の助成金を新に設けるので、村内企業業者も、都市部での人材勧誘を行ってほしい。

将来は、村外者を取り組む事業推進を考えている。小谷村での生活は居住環境の整備や就労面での待遇は必須であり、受け入れ企業や、就労者・移住者を迎える地域環境づくりの支援、具体的には社員寮整備支援、リクルート活動やインターン事業による人材確保の支援も行い、住みやすく働きやすい小谷村を実現するための取組を進めたい。

【つづき】

以上、議員四期十六年目最後の一般質問です。今日に至まで多くの村民の皆様にご指導ご鞭撻を賜りましてことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

さて、中村村長就任早々おたたりアセットの解散、四十二百万円の支払い契約、元職員の見舞いがメディアで報道されましたが、何れも議会での事前説明、庁舎内で論議されないで、事後報告となったことから、これらに対する議会の対応として、一般質問等で説明を求めたところ、「村長と議会が対立」などといわれ困惑しましたが、今後はこのような誤解を受けないように、今回の一般質問の回答にあった支援策を含め、新規事業などはメディアで報道される前に、庁舎内での検討、議会に対しての事前説明をお願いし、末尾に今後のご検討・小谷村の発展に期待し結びと致します。

これからの村政執行



太田 武彦 議員

⑥白馬高校を村は教育行政の中でどのように位置づけ、選ばれる学校づくりに向けての策はどうか。⑦村長在任の3年間の総括、最終年に向けての決意は。

問 ①大系線の今後について、村長の現状認識、行動の決意、村民の行動はどうするか。②総合複合拠点施設の今後の運営形態、運営費負担はどのくらいか。いつまでの負担となるのか。③一刻も早く将来の観光ビジョンを示し、村民一丸となって振興に取り組まねばならない。観光地域づくり審議会の答申を受けての振興策はどうなっているか。④資産・資源の移動が予測される。最も大切な水資源を保持するため、村で取得することはどうか。⑤神城断層地震で被災された方々の家賃は現状にとどめるべきであるがどうか。

答 村長 ①新聞報道は一部相違していることに同盟会等から嚴重に抗議している。JR西日本の経営状況等の報道等から心配することは当然のことである。大系線活性化協議会施策、村独自の施策に合わせて沿線各自治体や商工団体と力を合わせて対応する。大系線を使う行動こそが利用促進につながるものである。②村が直接従業員を雇用した経営を行う。費用については特別交付税での対応を要望していく。施設運営については、村民などを呼び込める企画、村民が気軽に立ち寄れる場所と

しての二方向から確立し、この施設を拠点とした経済効果のある事業を展開することを目指す。③村民・事業者・観光地域が一丸となって目標・ビジョンに向かつて行動することが必須であり、ビジョン作成には、課題と問題点をどう改善するか、どう目指してゆくかを決めることで向かう目標ができるようになる。地域と行政が一体となって検討・課題解決の体制をとりたいと思う。④個人水道等については所有状態もさまざまであり村では所有者等すべては把握していない。水源等の湧出地利用権の取得は考えていない。⑤「神城断層地震による被災者に対する村営住宅家賃の減免及び執行猶予に関する事務取扱要綱」により減免措置を講じている。今後も、小谷村に住み続けられるよう5年間延長した要綱に改正した。⑥小谷村から最も近い高校として重要な位置づけ

を持つ高校。様々な取り組みがなされているが安定した生徒数の確保に至っていない。高校の魅力アップとその魅力を中学生や保護者の方々に十分伝えていくことが重要だ。高校からの中学校への説明会等アプローチの持ち方について関係者と協議する。中高の交流によつて生徒同士が直接触れ合うことや、総合的学習の時間を使って相互の発表をしあうことなど考えられるので、白馬高校への理解を深める活動を進める。⑦就任前からの事業については一定の検証をした。観光振興についてもみちすじができた。地域医療の体制については特に妊婦を支える医療や支援体制の充実が出来てきた。来年度より公共交通の仕組みを変え、買い物支援など一層寄り添ったサービスを提供する。移住ポイント制度の刷新を図る。遊休農地の活用や小谷ブランドの創出は道半ばである

が小谷野豚等の活用し創意工夫をする。インフラ整備については今後も積極的に進める。今後も「チーム小谷」で明るく、元気に、暮らせるよう努める。

質問者要望

複合拠点施設に限らず運営資金負担、恒常的な施設改修等は今後を考えると最大限償むべき。

一つの策が

どう広がるかが「カギ」



複合拠点施設の運営は



北村 利幸 議員

の、村民を動かす活動、村民と何かを生み出す事業を考えていく。

白馬高校支援について

問 今年度の合格者が4名と見込まれ総生徒数が県高校再編基準生徒数を割り込むが、入学希望者が集まる魅力ある高校となるにはどのように取り組むか。

答 村長 安心見守り住宅としての利用者が少ない、1か月単位の利用料金など設定するべきではないか。今後どのように利用者を増加していくか。

問 村長 安心見守り住宅としての利用者15名、利用の理由は生活不安での宿泊やコロナウィルスでの家庭内感染防止などである。小谷村に住むために、過酷な気象条件やそれに伴う環境から一時的に避難などができるような場所として、安心安全を提供する事業は今後も継続して進める。

4月以降は、様々なテーマや課題を持った活動や事業展開を村民の希望するも

一般質問

問 村長 白馬山麓事務組合では、令和3年度より全国57自治体と連携し、地域再生計画「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト」を作成し、令和3年度から6年度までの4年間、地方創生推進交付金を活用しながら、全国募集、公営塾、学生寮の運営に活用している。

寮の多くは、新築でエアコン設置、個室対応と住環境の充実・整備されている。組合では、新年度、各部屋へのエアコン設置を行い、寮の住環境に取り組んでいく。白馬小谷の中学を卒業した生徒に対し、費用の2分の1、上限20万円を補助し、その他の生徒は、費用の2分の1、上限10万円を補助する。

各種検定費用に対する補助について、英語検定、数学検定、簿記、スキー、スノーボードの一定条件以上の検定費用に対し補助するよう取り組む。

公営塾内に学習コースのほかに、その他のコースを設け、部活動の支援のほか、スキースノーボードの技術習得や、山岳基礎・山岳環境が学べるようなコース設置を検討している。魅力ある白馬高校となるよう白馬村と協力しながら取り組む。

大系線存続と利用促進・輸送力強化

問 冬期運休本数が617本で、代替え輸送が2割程度しかなく通勤・通学など住民生活に大きな影響があった。観光客の入り込みにも大きな影響がある。今後、安定した運行を確保するための取り組みは。

また、利用促進には地元での盛り上がりや、イベント列車などで乗客を増やすことが必要と思うがどうか。

答 村長 観光で様々な目的を持った方々が利用している。また、今後インバウンドの復活による外国人利用者の見込めるので、JR西日本への示す考えには沿線自治体としてまとまった行動をすべきと考える。村民に利用を促すとともに、着地での交通網確保が課題である。

同盟会、協議会などで結束した行動、関係者と工夫した利活用の創出や発信をしていかなければと考える。

山菜加工所改修は

問 山菜加工所は施設・機械の衛生管理上、老朽化等改修工事が計画されていたがその後の経過は。

答 村長 現在の施設では塩漬けのみを行い、それ以降の加工は、外注での製品作りを計画中。現段階では、外注先で、現在と同レベルの小谷漬け等の製造ができていない。指定管理者として残り2年のうちに方向性を出すとのこと。JAでは加工所で多大な損失を出しているが、製品製造の継続を模索中でしばらく見守りたい。



4月から運営組織が変わる複合拠点施設

小学6年生模擬議会

表紙写真は、小谷小学校6年生の、模擬議会です。12月定例議会の一般質問を傍聴し、前号の議会日より10名の児童の感想を掲載させていただき、今度は2月10日に役場議会場において児童が4つの班ごとに分かれて村長と村幹部に一般質問をしました。そして、まとめとして前号で掲載されなかった児童9名分を掲載させていただきます。

「小谷の人口や観光客を増やすためには」をテーマに実施し、後日、「これまでの学習をもとに核心(テーマに対する子どもなりの答え)に迫る」を掲載します。核心は自身や他の同級生の質問の村長答弁または自分の調べたことをもとに記載してあります。

◆田原 萌生

質問…店の白月駐車場が分



かりにくいのでしっかりと止める場所を作った方がよい。核心…お店はお勧めや人気な物をアピールしてくるから、買いたくなるから人気になると思う。意見したことができたなら、お店全体が大人気になるかもしれないから、少しでも直せることは直してほしい。

◆矢口 彩由

質問…カフェ十三月の場所が分りにくいので看板を。核心…道を整備したり、外観をよくする。

◆萩無里 天芭

質問…ネットで道の駅のよ

さをもっと発信しては。核心…小谷の良さをネットなどでもっと発信する。

◆石川 和歩

質問…サンティン小谷に露天風呂を。核心…小谷の情報を発信しあうことが大事。

◆元村 優珠

質問…名産館が目立たないので看板を大きくするなど工夫を。

核心…安全上のことや自然環境のことなどを考えながら改善したり自ら動くことが大切とわかった。

◆猪又 詩乃

質問…白馬つがいけWOWの料金は高いので下げてもらえないか。村民割引は。核心…村に頼るのではなく、自分たちで村に提案して村を発展させていく。

◆萩原 優美

質問…柵池駐車場料金の値下げは。



核心…自然環境などをしっかり考え、小谷でしかできないことや、小谷ならではの何かを生かして魅力を発信していきたい。どうすれば良くなるか積極的に考える。

◆宮嶋 陽

質問…姫川の釣りは無料に。核心…大人でも姫川で釣りなどを無料にしてほしい。

◆バービック 魁

質問…鎌池の環境は。核心…もっと小谷に人が来るには、道をきれいに整備したり、目立ちやすくするように工夫する。

編集後記

今冬は7年ぶりに雪が多く、寒さも通年より厳しく、原油の値上げも影響してたいへんでした。コロナもオミクロン株が全国に猛威をふるい第6波となり、この記事を書いている時も村では感染者が出ているのが新聞に掲載されています。

4月1日から小麦、油等日用品の値上げがされ、中でも成人年齢が18歳に引き下げられました。

さて、私たち議員の任期は5月4日。4月19日告示の村議選挙の定数割れ(定数10の1/6基準で2名欠だと50日以内に補欠選挙)にならないよう望みます。

約267km²と長野県の町村では3番目に広い当村を良くするため一般質問した子どもたちに議員として手本になったか自問自答する今日この頃です。

(広報委員長 吉岡久人)